

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成19年12月6日(2007.12.6)

【公表番号】特表2004-534125(P2004-534125A)

【公表日】平成16年11月11日(2004.11.11)

【年通号数】公開・登録公報2004-044

【出願番号】特願2003-507155(P2003-507155)

【国際特許分類】

C 0 8 J 9/04 (2006.01)

C 0 8 K 5/13 (2006.01)

C 0 8 K 5/524 (2006.01)

C 0 8 L 23/10 (2006.01)

【F I】

C 0 8 J 9/04 C E S

C 0 8 K 5/13

C 0 8 K 5/524

C 0 8 L 23/10

【誤訳訂正書】

【提出日】平成19年8月23日(2007.8.23)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0009

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0009】

場合によっては、上述のプロセスのうち任意のプロセスの前又は後のいずれかにて、ポリマーに熱安定性を与えるために、最終組成物100重量部当たり0.03～0.5重量部の少なくとも500ダルトンの分子量を有する立体障害フェノール及び0.3重量部以下の式 $P(OR')_3$ （式中、R'は独立にアルキル基又はアリール基を表し、少なくとも一方は立体障害されている）の有機亜リン酸エステルとポリマーを溶融混合してもよい。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0014

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0014】

揮発性炭化水素化合物は、一般に、重合反応中に形成されたプロピレンオリゴマーである。これらは、通常、9～39個の炭素原子を含む。

典型的にはポリマー中に組み込まれてポリマーの熱安定性を増強するが、しかし、分解生成物及び／又は汚染物を介して揮発性化合物の原因となる添加剤は、立体障害フェノール類及び式 $P(OR)_3$ （式中、Rは独立にアルキル基又はアリール基を表す）の有機亜リン酸エステルを含む。しかし、特に500ダルトン未満の分子量を有する立体障害フェノール（フェノール(a)）、及び式 $P(OR)_3$ （式中R基の何れも立体障害アルキル基又はアリール基ではない）の有機亜リン酸エステル（亜リン酸エステル(a)）が、揮発性化合物の主要な原因である。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】 0 0 1 7

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【 0 0 1 7 】

逆に、少なくとも 500 ダルトンの分子量を有する立体障害フェノール類（フェノール（b））、及び式 $P(OR')_3$ （式中、各 R' は独立にアルキル基又はアリール基を示し、少なくとも 1 の R' は立体障害アルキル基又はアリール基を示す）の有機亜リン酸エステル（亜リン酸エステル（b））は、耐フォギング性に関してもっと低い不利な効果を有し、これらが添加されたものに対して有益な熱安定性を保持する。したがって、100 重量部当たり、少なくとも 500 ダルトンの分子量を有する立体障害フェノール類（フェノール（b））0.03～0.5 重量部と、式 $P(OR')_3$ （式中、各 R' は独立にアルキル基又はアリール基を示し、少なくとも 1 の R' は立体障害アルキル基又はアリール基を示す）の有機亜リン酸エステル（亜リン酸エステル（b））0.3 重量部以下とを含む組成物が好ましい。